

SYLLABUS
シ ラ バ ス
令和8年度後期

視能訓練士科 1年次

医療法人社団 慈恵会
神戸総合医療専門学校

視能訓練士科 教育課程（令和8年度後期）

1年次

科目名	単位数	時間数	年次	時期	科目名	単位数	時間数	年次	時期
生物学	2	30	1	前期	視能矯正学演習Ⅱ	1	30	2	前期
情報科学	1	15	1	前期	視能矯正学演習Ⅲ	1	30	2	前期
医用英語	2	30	1	前期	視能矯正学演習Ⅳ	1	30	2	後期
心理学	2	30	1	前期	視能障害学Ⅰ	1	30	1	後期
人間関係論	2	30	1	前期	視能障害学Ⅱ	1	30	2	前期
生命倫理学	1	15	2	後期	視能障害学Ⅲ	1	30	3	後期
キャリア教育Ⅰ	1	15	2	前期	神経眼科Ⅰ	1	30	2	前期
キャリア教育Ⅱ	1	15	2	後期	神経眼科Ⅱ	1	30	2	後期
保健体育Ⅰ	1	30	1	前期	眼薬理学	1	30	2	前期
保健体育Ⅱ	1	30	1	後期	視能訓練学Ⅰ（斜視）	1	30	1	後期
基礎医学Ⅰ	2	30	1	前期	視能訓練学Ⅱ（弱視）	1	30	2	前期
基礎医学Ⅱ	2	30	1	後期	視能訓練学各論Ⅰ	1	30	2	後期
人間発達学	2	30	1	後期	視能訓練学各論Ⅱ	1	30	2	後期
保育学	2	30	1	前期	視能訓練学Ⅰ演習	1	30	2	後期
臨床医学Ⅰ	1	15	2	後期	視能訓練学Ⅱ演習	1	30	2	後期
臨床医学Ⅱ	1	15	2	後期	視覚リハビリテーション（理論）	1	15	2	前期
臨床心理学	2	30	2	前期	視覚リハビリテーション（実践）	1	30	2	前期
精神衛生学	2	30	2	後期	視能訓練学特論Ⅰ	1	30	3	前期
医療統計学	1	15	2	前期	視能訓練学特論Ⅱ	1	30	3	後期
視能学概論	1	15	1	前期	臨地実習Ⅰ	1	45	1	後期
医療安全管理論	1	15	2	後期	臨地実習Ⅱ	1	45	2	後期
視器の解剖生理Ⅰ	2	30	1	前期	臨地実習Ⅲ	14	630	3	前期
視器の解剖生理Ⅱ	2	30	1	前期	視能学特論Ⅰ	1	30	1	前期
視覚情報処理学	2	30	1	後期	視能学特論Ⅱ	1	30	2	前期
視能検査学総論	2	30	1	前期	総合視能訓練学演習Ⅰ	1	30	1	後期
社会福祉学	2	30	1	後期	総合視能訓練学演習Ⅱ	1	30	2	後期
公衆衛生学	2	30	2	前期	総合視能訓練学演習Ⅲ	1	30	3	前期
専門職連携論	1	15	2	後期	総合視能訓練学	3	90	3	後期
保健医療と福祉	1	15	2	後期					
特別支援教育概論	1	15	2	後期					
基礎視能矯正学Ⅰ	1	30	1	前期					
基礎視能矯正学Ⅱ	1	30	1	後期					
基礎視能矯正学Ⅲ	1	30	2	前期					
幾何光学	1	30	1	前期					
生理光学Ⅰ	1	30	1	前期					
生理光学Ⅱ	1	30	1	後期					
生理光学Ⅲ	1	30	2	前期					
視覚生理学Ⅰ	1	30	1	後期					
視覚生理学Ⅱ	1	30	1	後期					
視覚生理学Ⅲ	1	30	2	前期					
基礎視能矯正学特論Ⅰ	1	30	3	前期					
基礎視能矯正学特論Ⅱ	1	30	3	後期					
生理光学Ⅰ演習	1	30	1	前期					
生理光学Ⅱ演習	1	30	1	後期					
生理光学Ⅲ演習	1	30	2	前期					
視能検査学Ⅰ	1	30	1	後期					
視能検査学Ⅱ	1	30	2	前期					
視能検査学総合演習	1	30	2	後期					
眼科画像解析学	1	30	2	後期					
視能矯正学演習Ⅰ	1	30	1	後期					

科目名		授業形態	担当教員名	
保健体育Ⅱ		講義・実技	田中 靖人	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
「保健体育Ⅰ」に続き、講義や実技を通して生涯にわたってスポーツを継続できる知識や、技術を深められる態度や行動ができるようになることを目的とする。 またパラスポーツ体験を通し、障がい者へのスポーツ活動の理解ができるようになり、興味関心を深まることを期待したい。				
授業の到達目標				
スポーツ活動を通して、身体のためのスポーツを実践したいという気持ちを養うことや、スポーツの楽しさを味わうことや、コミュニケーションツールとしてスポーツが活用されていることを理解する。 また、健康やスポーツに関して興味・関心を深めることができる態度を養成する。				
授業計画				
回	内容			
1	講義：ダイエットプログラムの実際			
2	実技：ニュースポーツ 1－1（アルティメット・インディアカ等）			
3	実技：ニュースポーツ 1－2			
4	実技：ニュースポーツ 1－3			
5	実技：ニュースポーツ 1－4			
6	実技：ニュースポーツ 1－5			
7	講義：パラスポーツとは			
8	実技：パラスポーツ 1（ボッチャ、STT、ゴールボール等）			
9	実技：パラスポーツ 2			
10	実技：パラスポーツ 3			
11	実技：パラスポーツ 4			
12	実技：パラスポーツ 5			
13	実技：パラスポーツ 6			
14	講義：有酸素運動のすすめ			
15	講義：まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	100%	テーマに沿ったスポーツからの知識や経験が具体化されているかを述べてください。評価基準は別途示します。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	参考文献は定めないが、必要に応じて指示することがある。			
備考				
実技受講の際には、運動にふさわしい服装で臨み、装飾品等は危険防止のため外し、貴重品類は盗難防止のためグランドや講堂には持ってこないこと。 けがや病気等で実技ができない場合は報告・相談すること。 天候や進度、履修者数によって実技種目や講義日を変更する場合があります。				

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎医学Ⅱ		講義	宮崎 茂雄	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
種々の臨床課題に取り組んでいくためには、人間での生命現象を総合的に理解する能力が必須になります。 【基礎医学Ⅱ】では、人体を細胞レベルで考える組織学的視点を出発点として、病理学、免疫学、遺伝学などの多方面の医学領域から、構造と機能の障害である種々の疾病の病態の理解を深め、総合的に人間における生命現象を学んでいきます。				
授業の到達目標				
① 一般的な細胞の構造をもとにして、人体を構成する組織の構造と機能が説明できる ② 人体の発生、成長、老化の過程が説明できる ③ 人体の構造と機能の障害である各種の疾病の概略が説明できる				
授業計画				
回	内容			
1	第3部 顕微鏡的観察による人体の構造と機能		1 細胞、組織、器官	
2	〃		2 上皮組織（1） 被蓋上皮、腺上皮	
3	〃		3 上皮組織（2） 吸収上皮	
4	〃		4 非上皮組織（1） 支持組織、筋組織	
5	〃		5 非上皮組織（2） 神経組織の正常構造	
6	〃		5 非上皮組織（3） 神経組織の構造変化と機能	
7	第4部 人体の構造と機能の障害		1 恒常性とその障害	
8	〃		2 発生と老化	
9	〃		3 疾病の機序（1） 発症機序、細胞障害、循環障害	
10	〃		4 疾病の機序（2） 感染、腫瘍	
11	〃		5 免疫機構とその障害	
12	〃		6 ゲノムと遺伝子疾患	
13	〃		7 移植医療	
14	〃		8 画像診断	
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	定期試験のみで評価します		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	理解度のセルフチェックのための小テストを講義ごとに実施します			
教科書				
書名		著者・編集者名		出版社名
なし				
自由記載	講義内容に沿ったプリント資料を配布します			
参考文献				
書名		著者・編集者名		出版社名
からだが見える 人体の構造と機能 第1版		医療情報科学研究所 編		メディックメディア
視能学 第3版		小林義治 他編		文光堂
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
人間発達学		講義	尾崎 勝彦	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
本科目は、人間が「ヒト」ではなく、「人間」としての心身の成長と発達及び加齢について学ぶことによって、医療者として最重要事項のひとつである人間観を涵養することを目的とする。自らの人間観に基づき、患者が、ライフサイクル上のどの地点にあり、どのような心理的・身体的・社会的、そしてスピリチュアルな問題を抱えているかを理解することによって、適切なケアを提供できるようにする。				
授業の到達目標				
①心身の成長と発達・加齢、および各段階における問題点について理解する。 ②発達段階に応じたアプローチができるようになる。				
授業計画				
回	内容			
1	人間発達学とは ①サルからヒトへー人類700万年の歴史 ②生涯発達、生涯学習			
2	主な発達理論 ①フロイトとエリクソン			
3	②ピアジェとボウルビィ			
4	③レビンソンとハビィガースト			
5	ライフサイクルと発達 ①胎児期の心と身体			
6	②乳幼児期の心と身体1			
7	③乳幼児期の心と身体2			
8	④学童期の心と身体			
9	⑤思春期の心と身体			
10	⑥青年期の心と身体			
11	⑦成人期の心と身体			
12	⑧中年期危機のグループワーク			
13	⑨老年期の心と身体1			
14	⑨老年期の心と身体2			
15	⑩死			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	基礎的な事項の理解ができているか。		
レポート・課題				
小テスト				
その他	20%	グループワークへの参加と発表、および発表の評価。基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
使用しない、ほぼ毎回プリントを配布する。				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
看護のための人間発達学 第5版	舟島なをみ・望月美知代 著		医学書院	
発達心理学概論 新訂	向田久美子 編著		放送大学教育振興会	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
視覚情報処理学		講義	谷口 誠典・菊地 雅史	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
視覚情報は、網膜で受容された後、視路を介して中枢神経系へ伝達され、脳内で統合・処理されることで、眼球運動や瞳孔反応などのさまざまな視機能として発現する。本科目では、視能訓練士に必要な解剖生理学の基礎知識を修得し、視覚情報がどのように伝達・処理されるかを学習する。本科目の学修を通して、学生が視覚情報処理の仕組みを論理的に説明できるとともに、今後学ぶ神経眼科疾患や視能矯正学、臨地実習に必要な基礎的能力を身につけることを目的とする。				
授業の到達目標				
①ニューロンの構造・機能および活動電位の発生機序について説明できる。 ②中枢神経系、視路および脳神経の構造・機能を理解し、視覚情報の伝達経路を説明できる。 ③対光反射および眼球運動の神経機構を理解し、その生理学的機序を説明できる。 ④頭位異常や眼球運動障害の評価法（Parksの3 step法を含む）を理解し、検査結果を考察できる。				
授業計画				
回	内容			
1	神経（ニューロン）とは			
2	中枢神経系の構造と機能、大脳の部位と機能			
3	練習問題 1、視路について			
4	Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ神経、血管の走行			
5	練習問題 2，国試過去問 2			
6	頭位異常について			
7	Parksの3steps			
8	ふりかえりテスト			
9	活動電位			
10	全か無かの法則			
11	対光反射			
12	対光反射の実践			
13	眼球運動系視覚情報処理①（菊地Dr.）			
14	眼球運動系視覚情報処理②（菊地Dr.）			
15	まとめプリント			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	自己の理解度を確認する為、分野毎に小テストを実施する。小テストは評価基準には入れない。			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版		若山曉美 他編	医学書院	
視能学エキスパート 視能検査学 第2版		和田直子 他編	医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
社会福祉学		講義	棚野 恭範	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
1. 実践現場（医療・福祉等）における視能訓練士の役割りとして、個別援助サービスを展開する場合、対象者の抱える多様な福祉課題を認識し、対象者を人間としてのトータルな視点を有することが必要である。2. 社会福祉は、生活上の福祉課題を明らかにし、リハビリテーション・ノーマライゼーションの理念のもと、人間が人間として相応し生活を営む権利を保障していくことである。これは老若男女を問わず人間一人ひとりが当事者性を認識することが肝要である。以上を受けて、障害者・高齢者福祉他を中心に基本的な社会福祉の視点を始め、概論・各論について現況・課題、制度とサービスについて事例を多く紹介し、実践学として社会福祉を身近なものとし、又自分自身の問題とするための内容としたい。				
授業の到達目標				
社会福祉で習得する知識をロービジョン学に発展させる。 障害者・児童・高齢者などの支援に関係する社会福祉の法律や制度について理解をする。				
授業計画				
回	内容			
1	総論Ⅰ 社会福祉学を学ぶ意味、社会福祉の歩み			
2	総論Ⅱ 社会福祉関連法と施設・機関・福祉専門職・キーワード			
3	地域福祉Ⅰ 地域を取りまく課題、地域福祉とは			
4	地域福祉Ⅱ ボランティア活動、阪神淡路大震災と災害ボランティア			
5	グループワークⅠ 社会福祉を考える			
6	社会保障制度Ⅰ 社会保障制度の現状と課題、生活困窮			
7	社会保障制度Ⅱ 生活保護制度、課題解決と法律・制度			
8	子ども家庭福祉Ⅰ 子ども家庭福祉、課題解決と法律・制度・社会資源			
9	子ども家庭福祉Ⅱ 子どもを取りまく現状と課題、ヤングケアラーとは			
10	障がい者福祉Ⅰ 障がい者福祉、課題解決と法律・制度・社会資源			
11	障がい者福祉Ⅱ 障がい者を取りまく現状と課題			
12	高齢者福祉Ⅰ 高齢社会の現状と課題			
13	高齢者福祉Ⅱ 要援護高齢者と介護問題、地域包括ケアシステム、介護保険制度			
14	グループワークⅡ 福祉課題の検討			
15	社会福祉学まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	社会福祉全般にわたる理解内容を評価基準とする		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
よくわかる社会福祉 新版		山縣文治・岡田忠克 編	ミネルヴァ書房	
自由記載	レジメ・講義（参考）資料を配付する			
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎視能矯正学Ⅱ		講義	山寄 統子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
本科目では斜視・弱視を評価する上で重要な検査である視能検査の目的と方法及び評価などについて基本的知識を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
①各視能検査の目的と方法を説明することができる。 ②検査結果から固視・眼位・両眼視の状態を評価できる。				
授業計画				
回	内容			
1	固視検査（検査の目的、角膜反射による固視検査、両眼性固視検査）			
2	固視検査（直像鏡による固視検査、その他の固視検査）			
3	単眼性眼位検査（検査の目的、各検査の手順）			
4	単眼性眼位検査（各検査の手順・結果の評価）			
5	両眼性眼位検査（角膜反射による方法）			
6	両眼性眼位検査（遮閉試験）			
7	両眼性眼位検査（プリズム遮閉試験）			
8	両眼性眼位検査（Maddox杆を用いる方法）			
9	両眼性眼位検査（回旋偏位の測定方法）			
10	大型弱視鏡検査（測定原理、検査の目的、他覚的斜視角検査）			
11	大型弱視鏡検査（自覚的斜視角検査、網膜対応検査）			
12	大型弱視鏡検査（融像検査、立体視検査）			
13	まとめ（固視検査・単眼性眼位検査）			
14	まとめ（両眼性眼位検査）			
15	まとめ（大型弱視鏡検査）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	定期試験で評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
眼科検査ガイド 第3版		根木昭 監修	文光堂	
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版		若山曉美 他編	医学書院	
視能矯正学 改訂第3版		丸尾敏夫 編	金原出版	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
生理光学Ⅱ		講義・演習	荻野 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
これまでに学修した屈折異常の知識を更に深めるとともに、調節との関係を理解することを目的とします。また、調節異常である老視の矯正を行えることを目的とします。				
授業の到達目標				
①不同視と不等像視の関係を説明できる。 ②調節力の計算や、遠点・近点・明視域の位置を求めることができる。 ③調節力に応じた近用眼鏡度数の選択ができる。 ④授業範囲に関連する国家試験の問題を解くことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	復習プリント（屈折異常）			
2	復習プリント（プリズム）			
3	不同視			
4	不等像視の検査			
5	屈折度と遠点			
6	調節、明視域			
7	眼鏡装用時の遠点・近点・明視域			
8	老視			
9	調節検査【演習】			
10	近見視力検査			
11	近見視力検査【演習】			
12	近用眼鏡			
13	近用眼鏡の計算			
14	みかけの調節力、頂間距離補正			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
目でみる 視力・屈折検査の進めかた 第2版増補		所敬・山下牧子 著	金原出版	
視能学エキスパート 光学・眼鏡 第2版		松本富美子 他編	医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
屈折異常とその矯正 改訂第7版		所敬 著	金原出版	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
視覚生理学 I		講義・演習	山寄 統子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
眼科検査の中で、視野検査は他の診療科との連携の上でも重要な検査です。信頼できる検査結果を求めるために、正確な知識と手技が必要です。本講義では、視野検査に関わる基本的知識・視野異常について理解をし、基本的な検査方法を習得することを目的とします。				
授業の到達目標				
①視野検査に関わる基本的な知識を説明することができる。 ②視野異常について説明することができる。 ③正常視野に対する各視野検査を正確に実施することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 視野とは 視野を理解するための解剖			
2	視野検査を理解するための視覚生理学			
3	動的視野検査とは			
4	動的視野検査①(実習室) 輝度調整、準備			
5	動的視野検査②(実習室) 測定方法			
6	動的視野測定演習①(実習室) 正常視野測定			
7	動的視野測定演習②(実習室) 正常視野測定			
8	静的視野検査とは			
9	静的視野検査(実習室) 準備、機器の扱い方			
10	視野測定演習①(実習室) レポート課題			
11	視野測定演習②(実習室) レポート課題			
12	視野測定演習③(実習室) レポート課題			
13	視野測定演習④(実習室) レポート課題			
14	その他の視野検査			
15	視覚生理学 I まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	課題に対し適切にレポートを作成できているかを評価する。評価基準は別途示す。		
レポート・課題	20%			
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
眼科検査ガイド 第3版		根木昭 監修	文光堂	
視能学エキスパート 視能検査学 第2版		和田直子 他編	医学書院	
理解を深めよう 視野検査 第1版補訂版		松本長太 監修	金原出版	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
視覚生理学Ⅱ		講義・演習	荻野 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
視覚系は眼の光学系、視覚伝導系、眼の運動系からなる情報処理機構であり、脳により統合処理されている。本講義では視覚系の基礎的知識（光覚・色覚）を習得し、視覚に関わる信号処理のメカニズムについて理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
視覚の仕組みと視機能・視知覚との関連を考えることが出来る。 適切な検査手技により、検査結果を導くことが出来る。 検査結果から適切な評価が出来る。				
授業計画				
回	内容			
1	視覚生理学・視覚心理学			
2	視覚認知学			
3	色彩の心理と認知			
4	網膜の光化学			
5	色についての基本的知識			
6	先天色覚異常（1）種類			
7	先天色覚異常（2）遺伝			
8	後天色覚異常			
9	色覚検査（1）仮性同色表			
10	色覚検査（2）色相配列検査			
11	色覚検査（3）アノマロスコープ			
12	色覚検査【演習】			
13	色覚検査【演習】			
14	光覚検査			
15	光覚検査【演習】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
眼科検査ガイド 第3版		根木昭 監修	文光堂	
視能学エキスパート 視能検査学 第2版		和田直子 他編	医学書院	
病気がみえる vol.12 眼科		医療情報科学研究所 編	メディックメディア	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
生理光学Ⅱ 演習		講義・演習	荻野 綾・荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
本科目では、クロスシリンダーを用いた乱視矯正の原理を理解し、技術を習得することを目的とします。				
授業の到達目標				
①クロスシリンダー法の原理を説明できる。 ②正しい手順で検査を実践できる。				
授業計画				
回	内容			
1	復習プリント（視力検査、球面レンズ矯正）【講義】			
2	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がない時【講義】			
3	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がない時①【演習】			
4	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がない時②【演習】			
5	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がない時③【演習】			
6	クロスシリンダー法 赤緑試験を利用する方法【講義】			
7	クロスシリンダー法 赤緑試験を利用する方法①【演習】			
8	クロスシリンダー法 赤緑試験を利用する方法②【演習】			
9	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がある時【講義】			
10	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がある時①【演習】			
11	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がある時②【演習】			
12	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がある時③【演習】			
13	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がある時④【演習】			
14	まとめ①【演習】			
15	まとめ②【演習】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	20%	演習レポートにより理解力、表現力を評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	80%	実技試験により習熟度を評価する(60%)。授業に取り組む姿勢、積極性を評価する。評価基準は別途示す(20%)。		
自由記載	再試験は実技試験(100%)で評価する。			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
目でみる 視力・屈折検査の進めかた 第2版増補		所敬・山下牧子 著	金原出版	
視能学エキスパート 光学・眼鏡 第2版		松本富美子 他編	医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
屈折異常とその矯正 改訂第7版		所敬 著	金原出版	
理解を深めよう 視力検査 屈折検査		所敬 監修	金原出版	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
視能検査学Ⅰ		講義・演習	荻野 綾・荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
視器の各部位の検査を学ぶ。				
授業の到達目標				
①視器の正常構造と生理機能を理解した上で各種眼科検査機器での検査意義が説明できる。 ②正常者の検査が正しく行える。 ③患者に対し、分かりやすい検査説明ができる。 ④授業範囲に関連する国家試験の問題を解くことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	角膜検査 角膜曲率半径			
2	角膜検査 角膜形状解析装置			
3	角膜検査 角膜知覚・角膜厚検査			
4	角膜検査 角膜内皮細胞検査			
5	角膜検査① 角膜曲率半径測定【演習】			
6	角膜検査② 角膜内皮細胞検査【演習】			
7	眼球突出検査			
8	眼圧検査①			
9	眼圧検査② 演習に向けて			
10	眼球突出検査／眼圧検査①【演習】			
11	眼球突出検査／眼圧検査②【演習】			
12	涙液検査① 量的検査			
13	涙液検査② 質的検査			
14	涙液検査【演習】			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%	演習レポートにより理解度と表現力を評価する。評価基準は別途示す。		
レポート・課題	30%			
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
眼科検査ガイド 第3版		根木昭 監修	文光堂	
視能学エキスパート 視能検査学 第2版		和田直子 他編	医学書院	
病気がみえる vol.12 眼科		医療情報科学研究所 編	メディックメディア	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名			
視能矯正学演習Ⅰ		演習	山 寄 統子			
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期		
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	後期		
授業の目的・概要						
本演習では斜視検査の基礎と応用について学びます。基礎的知識を固めながら、実際に検査ができるようになること、得られた検査結果を評価し考察する力を身につけることを目的としています。						
授業の到達目標						
①各視能検査の目的、方法、結果の解釈について理解する。 ②正しい検査手順で行い、カルテ記載ができる。 ③各検査の違いを理解し、結果を評価することができる。						
授業計画						
回	内容					
1	固視検査・眼位検査①（実習室）		授業開始時期：基礎視能矯正学Ⅱ第9回終了後			
2	固視検査・眼位検査②（実習室）					
3	固視検査・眼位検査③（実習室）					
4	固視検査・眼位検査④（実習室）					
5	固視検査・眼位検査⑤（実習室）					
6	眼位検査・大型弱視鏡検査①（実習室）		授業開始時期：基礎視能矯正学Ⅱ第12回終了後			
7	眼位検査・大型弱視鏡検査②（実習室）					
8	眼位検査・大型弱視鏡検査③（実習室）					
9	眼位検査・大型弱視鏡検査④（実習室）					
10	眼位検査・大型弱視鏡検査⑤（実習室）					
11	課題研究（実習室）					
12	課題研究（実習室）					
13	課題研究（実習室）					
14	課題研究（実習室）					
15	まとめ（実習室）					
成績の評価方法と基準						
種別	割合	評価基準・その他備考				
定期試験						
レポート・課題	30%	毎回の授業で取り組む課題について、理解力、考察力、表現力を評価する。評価基準は別途示す。				
小テスト						
その他	70%	実技試験により習熟度を評価する。評価基準は別途示す。				
自由記載						
教科書						
書名		著者・編集者名	出版社名			
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂			
眼科検査ガイド 第3版		根木昭 監修	文光堂			
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版		若山曉美 他編	医学書院			
自由記載						
参考文献						
書名		著者・編集者名	出版社名			
なし						
自由記載						
備考						

科目名		授業形態	担当教員名	
視能障害学Ⅰ		講義	宮崎 茂雄	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
【視器の解剖生理Ⅰ、Ⅱ】の知識を基にして、主要な外眼部・前眼部疾患、白内障、および中途失明に結びつく緑内障での自覚症状、他覚所見、各種の検査結果が生じてくる機序が説明できることを目的としています。【視能障害学Ⅰ】で取り上げられる主要疾患の病態の理解は、視能訓練士としてレベルの高い業務遂行のための必須の知識になっていきます。				
授業の到達目標				
①外眼部・前眼部疾患、白内障および緑内障の病態が説明できる。 ②視能訓練士の行う各種の検査結果が、各疾患の診断と治療評価にどのように役立てられるのかが説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	眼症状 視力低下、視野欠損、眼痛			
2	眼科診療の手順 医療面接、眼科検査			
3	眼瞼疾患 眼瞼下垂、麦粒腫、霰粒腫			
4	涙器疾患 涙液分泌減少症・眼乾燥症			
5	結膜疾患 結膜炎			
6	角膜・強膜疾患(1) 角膜炎、角膜潰瘍			
7	" (2) 円錐角膜、角膜の手術、強膜炎			
8	水晶体疾患(1) 白内障、水晶体位置異常			
9	" (2) 白内障手術 ― 術前検査			
10	" (3) 白内障手術 ― 手術手技、合併症			
11	緑内障(1) 定義、特徴的な眼底変化			
12	" (2) 特徴的な視野障害、その他の検査所見			
13	" (3) 病型分類			
14	" (4) 治療方針			
15	総括 関連する国試既出問題			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	定期試験のみで評価します。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	理解度のセルフチェックのために小テストを講義ごとに実施します。			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
病気がみえる vol.12 眼科		医療情報科学研究所 編	メディックメディア	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
イラスト眼科 第8版		渡邊郁緒・新美勝彦 著	文光堂	
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能訓練学Ⅰ（斜視）		講義	荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
本講義では斜視の定義、病因論および分類、臨床特徴について学習する。				
授業の到達目標				
①斜視の各型について臨床特徴を理解する。 ②診断に必要な検査を選択でき、また得られる結果を予想できる。 ③斜視の各型について治療方法を述べることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	斜視の病因論			
2	斜視の分類			
3	先天内斜視 授業開始時期：基礎視能矯正学Ⅱ第7回終了後			
4	後天内斜視			
5	調節性内斜視（1）屈折性調節性内斜視、部分調節性内斜視			
6	調節性内斜視（2）非屈折性調節性内斜視、非調節性輻湊過多型内斜視			
7	間欠性外斜視（1）運動面からの分類 授業開始時期：基礎視能矯正学Ⅱ第12回終了後			
8	間欠性外斜視（2）感覚面からの分類			
9	恒常性外斜視・続発外斜視			
10	内斜視・外斜視のまとめ			
11	交代性上斜位			
12	上下斜視・回旋斜視			
13	A-V型斜視			
14	微小斜視			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編		金原出版	
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山曉美 他編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
臨地実習Ⅰ		実習	荻野 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
45 時間 （ 1 単位）		回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
臨地実習Ⅰの目的は以下の通りである。 ①保育実習は、保育学での学びを実践し、年齢に応じた声掛けや発達や状況に合わせた対応を習得する。 ②病院 眼科外来見学実習は、眼科業務の主な流れを理解し、医療従事者をを目指す者としての責任と自覚、マナーや協調性を身につける。				
授業の到達目標				
1. 実習生としての立場をわきまえ、行動できる。 2. 保育実習を通して乳幼児の特性や行動を観察し、発達に応じた対応ができる。 3. 病院 眼科見学を通して、視能訓練士を目指す為に今後学ぶ学問の必要性を述べることができる。				
授業計画				
回	内容			
	保育実習 ガイダンス 実習事前評価			
	保育実習（3日）			
	保育実習 振り返り			
	病院 眼科見学 ガイダンス 実習事前評価			
	病院 眼科見学（2日）			
	病院 眼科見学 振り返り			
	病院 眼科見学 報告会資料作成			
	病院 眼科見学 報告会			
保育実習 3日×8時間 病院実習 2日×8時間 臨地実習合計 40時間 自己学習 5時間 合計 45時間				
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題				
小テスト				
その他	100%	実習評価項目により評価する。（ガイダンスで説明する）		
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名		出版社名
なし				
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名		出版社名
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
総合視能訓練学演習 I		講義・演習	荻野 綾・荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
本科目では、グループワーク等により自らの知識・技術を振り返り、さらなる向上を目指すことを目的とする。				
授業の到達目標				
これまでに修得した検査を正しい手順で実施することができる。 グループワークを通して前期で学習した知識を定着させることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	実習①被検者（両眼視機能検査、眼球運動検査、視野検査）＜実習室＞			
2	実習②検者（視力検査、瞳孔間距離測定検査）＜実習室＞			
3	実習の振り返り			
4	グループワーク①（ポスター作成）			
5	グループワーク②（ポスター作成）			
6	グループワーク③（ポスター発表）			
7	IPE①			
8	IPE②			
9	IPE③			
10	IPE④			
11	IPE⑤			
12	IPE⑥			
13	IPE⑦			
14	IPE⑧			
15	1年の学びを振り返る			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	50%	提出物、ポスター作成により評価する。提出期限を守れない場合は減点とする。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	50%	授業に取り組む姿勢、ポスター発表により評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				